

チッソ企業城下町・水俣市の苦悩 市政も議会も企業の強大な影響下で！

無所属クラブは、7月19日、熊本県水俣市へ環境政策を視察させて頂きました。読者皆様も言葉としての「水俣病」は聞いた事はあると思います。水俣市は92年に「水俣病のような公害を二度とおこさない」環境モデル都市づくり宣言をされていますが、その経過と現実を視察させて頂きました。

市立水俣病資料館は平成5年に、水俣病の歴史・現状を正しく認識し、悲惨な公害を再び繰り返さないと言う切なる願いと、貴重資料の収集保存、後世への継承を目的に開館。開館20年以上の経過後、最高裁判決で水俣病の被害拡大を防げなかったことについて、国・県の責任が確定。しかし、水俣病問題については、様々な争いが続いており未だに解決していません。「時代を担う子どもたちにとってわかりやすい展示とする」ため、開館以来始めて展示を全面改修。

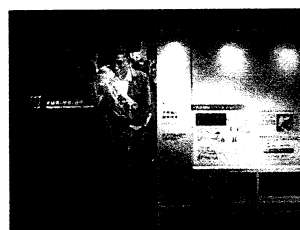
情報発信の拠点、環境や命、人権を大切に思う水俣市民のよりどころ、さらには地球規模の環境問題の解決へささやかでも貢献できることを目指しています。との紹介でした。印象的でしたのは、経済優先「日々の生活のために」大企業の論理が人間の命を軽んじる結果になり、そのことに企業城下町の行政も議会までもが重い腰となった事への反省も説明を受けました。また、小学生は必ず資料館授業を受けるとの事。

声の大きな議員が 戦争体験者の話を聞いてない

大脇雅子弁護士（旧明郷中学卒・元参議員）が岐阜空襲体験を講演された時に、語られた。著書「マサコの戦争」を書くきっかけは、改憲論を大きな声で主張する国会議員に「あなたは御家族の戦争体験を聞いたことがあるのか？」と質問した時、「一度も無い」と回答された。その驚きが「実体験を語り継がなければ」と私を動かした。と。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

Ⅲ 水俣病の被害と補償



**水俣病は
うつりません。**

7. 水俣病の健康被害
水俣病の症状や被害の広がりを図解にて解説しています。

8. 被害者の闘いと認定・補償制度

9. 水俣病の社会的被害

水俣病と認定を求める被害を受けた方々の闘いは今もなお続いています。



**10. 患者さんの立場に立って
(体験コーナー)**

水俣市立 水俣病資料館 資料より

太宰府市 福岡と張り合わないこと 大都市と同じでない文化都市構築へ

無所属クラブで太宰府市の「景観と歴史のまちづくり」について勉強させて頂きました。印象的でしたのは「市民と話し合う事の大切さ」を強調されていた事です。事前の話し合いの少なかった公園施設は建設後の市民利用が極めて少ない。他方、市民との会話を大切にして建設した施設は、市民自ら「利用方法を提案し続ける」現状から、「時間はかかっても対話が重要」と強調されていた事です。

また、全体として隣接する福岡市と同じような行政を行わない事。太宰府市としての考え方を持って、政策立案することへの大切さ。をお聞きし、名古屋市のベッドタウンで、趣ある文化都市・岐阜市への 松原のりかず 意見も交換しました。

日々の活動に感謝

夏のイベントは多くあります。毎年、本郷地区の夏祭りが行なわれますが、飲食もあり、多くゴミが出てしまいます。イベントの明るる日に収集をお願いでき、自治会をはじめ各種団体は感謝しています。行事は主催者だけで成り立つものではない事と「いつものように」「あたりまえ」に業務が遂行される努力への感謝を思います。

災害時「蛇口をひねっても水が出ない」時に水道のありがたさも再確認されますが、「あたりまえの水」に日々の努力がされています。酷暑の中の仕事です。

旧長崎屋（柳ヶ瀬）の建物内視察は実現せず

都市活性化対策特別委員会（8月6日）

崩落などの新聞報道もされていた建築物です。岐阜市柳ヶ瀬の中心部にある旧長崎屋の建物について都市活性化のための基礎知識として「まず、現状把握が大切」ではと、松原のりかず が、特別委員会の議題として「建築物内部の視察」を提案しました。しかし、特別委員会全体の合意とはならず、視察実現となりませんでした。大変残念です。



松原のりかず
☎058-253-2500